

## 伝え合い、描く楽しさを味わう

～おもしろい！もっとやりたい！をめざして～

洲本市立由良小学校  
教諭 宮脇 祐子

### 1 取組の内容・方法

#### (1) はじめに

洲本市由良は、大阪湾の入口にあり、紀淡海峡に面した漁船行き交う漁師町である。学校を一步踏み出すと、対岸には瀬戸内海国立公園「成ヶ島」が横たわっており、校舎からも「成ヶ島」をはじめ、和歌山まで見渡すことができる。タンカーや大型客船もよく往来し、子どもたちは窓から見えるこの景色が大好きだ。

児童数 92 名の小規模校である。子どもたちは、純真で活発、意欲的に活動する。たてよこのつながりが深く、休み時間はいろいろな学年が混ざり合っって仲睦まじく遊んでいる。そして、愛する故郷、由良のきらきら輝く海と、ふんわり温かく包みこんでくれる地域の人々に囲まれて伸び伸びと育っている。

本稿ではこの由良小学校での図画工作科を中心とした授業実践について報告する。

#### (2) 伝え合う力を育む ～一年生の言語活動～

学校という新しい世界の中へ飛び込んできた一年生。これから始まるすべての素地を養う大切な時期である。成長と共に互いの表現のよいところやおもしろいところに気づき、人に伝えるための表現も少しずつできるようになってくる。

そこで、「人の話をしっかり聞く」をはじめの一步としている。そして、学校生活に慣れてくると、伝え合う力を育むために、スピーチを取り入れている。このスピーチの積み重ねが、あらゆる場面で活かされてくる。

しかし、人前で話すことに慣れていない子どもにとって、スピーチはとても緊張する。人に伝える楽しさを実感し、話をしっかり聞くことができるように取り組んでいる。

伝え合う力を育むことで、子どもたちが共感し、高め合うことができる。それが土台となり、主体的・対話的で深い学びが実現できると考える。図画工作科の鑑賞でも、日々のスピーチとつなげた言語活動を取り入れている。



#### (3) 授業づくりで心がけてきたこと

##### きっかけ

技法や仕掛け、素材、題材との出会いにより「おもしろい！」と心ときめかせ、描くことが楽しくなるきっかけづくり。

##### 達成感

「もっとやりたい！」と意欲的に活動できるよう経験を積ませ、個々の能力に応じて達成感を得られる題材。

##### 発問の工夫

鑑賞会では、形や色づかい、登場人物の動きに注目させ、何がどう描かれているか、どう感じるか気づけるような発問の工夫。

##### 雰囲気

没頭して制作できる雰囲気づくり。

(4) 授業の構成

図画工作科「A 表現」の造形活動と「B 鑑賞」をつなげ、読み聞かせなどを通して表現の発想を広げる。その中で、制作中、制作後の鑑賞会を取り入れて構成した。

主体的な学び	表現の発想を広げる	ステップ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を子どもたちの生活に身近な地域のことや興味を持っていることにつなげる。</li> <li>・思い浮んだ数多くのアイデアを出し合い、共有することで多様な発想が生まれる。</li> <li>・絵本の読み聞かせを通して感性を広げる。</li> </ul>
	楽しむ	ステップ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな技法を働かせ、素材と出会い、造形遊びを通して楽しむ。</li> <li>・作り出す喜びを味わう。</li> <li>・技能や表現方法を身につけることで次のステップへつなげる。</li> </ul>
対話的な学び	表現の構想を深める	ステップ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作中の作品を黒板に掲示し、友だちの工夫や着目点を鑑賞し語り合うことで、自分の作品への見方や感じ方を深める。</li> <li>・「次はどうなるんだろう」「次は〇〇しよう」などの深まりを生み出す。</li> </ul>
深い学び	友だちの発想を知り、気持ちがつながる	ステップ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上がった作品を黒板に掲示し、お互いの作品を鑑賞する時間を作り、その中で自分の作品と対話する。</li> <li>・作品への思いを、スピーチを通して伝える。</li> <li>・作品について感じたことを確かめたり、作品の素敵なところを伝え合ったりするなど言語活動の充実を図り、深い学びとなる手立てとする。</li> </ul>

(5) 実践事例

【事例①】1年表現：デザイン「きらきら どっきん うちゅうへごー！」

こだわりのオリジナル宇宙船で宇宙探検をするという想像をふくらませ、楽しんで絵に表現させる。宇宙空間の雰囲気づくりとして、製作中はBGMを流した。

ステップ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会や図書の時間を利用して、絵本の読み聞かせ（たっぷり）を行い、「宇宙」のイメージを十分にふくらませる。</li> <li>・由良の町から見るきれいな夜空と、宇宙のつながりを感じる。</li> <li>・宇宙に対する興味と憧れを持たせ、宇宙という未知の世界を探検するどきどき感を大切にする。</li> </ul>	
広げる		

<p>ステップ2</p> <p>楽しむ</p>	<p>① スパッターリングの技法 宇宙に通じる黒い工作用紙に、あみとブラシでスパッターリングの技法を使って黄色の絵の具で星を描く。</p>  <p>②オリジナル宇宙船を作る ・色画用紙や紙テープ、色紙、カラーホイルで工夫する。 ・画用紙にカラーペンで自分を描き、窓に見立て宇宙船に乗せる。</p>  <p>③絵本の読み聞かせで「宇宙探検」への思いを膨らませる。</p>
<p>ステップ3</p> <p>深める</p>	<p>①黒板を宇宙に見立て、それぞれの宇宙船を好きな場所に貼る。</p> <p>②どんな宇宙冒険をしたいか、友だちと対話をする中で、自分との対話も深める。</p> <p>↓</p> <p>絵画制作であまり使ったことのない白いパスを使い、いつもはできない黒板に落書きをするようなわくわく感覚で宇宙探検のびのびと表現する。</p>  
<p>ステップ4</p> <p>つながる</p>	<p>・作品を黒板に掲示して、宇宙に見立てる。 ・「どんな宇宙船に乗ってどんな宇宙探検をしたか」話を聞き、鑑賞会をする。</p> <p>① 絵の説明をする。 ② 質問に答える。 ③ 友だちの作品の「素敵だな」と感じたことを発表する。</p> 

【事例②】1年表現：デザイン「潜水艇に乗って」

- ・絵本の読み聞かせで、海中のイメージを膨らませる。
- ・潜水艇は、形を工夫し、アルミニウムはくで包み、油性マジックで色付けを楽しんだ後、透明の窓を付け、仕上がった潜水艇で造形遊びをした。
- ・由良の海にいる魚やウミガメ、泳いでいた時にたくさんいたクラゲ軍団、釣りに行ったとき偶然釣れたタコが、絵の中で墨を吹いて大暴れする話に発展するなど、どの作品も生き生きした表現にあふれていた。



【事例③】1年表現：描画「くじらぐものともだち」

- ・国語科でイメージを持ちやすいように提示した立体教材「くじらぐも」から絵画制作における表現の発想を広げた。
- ・空はローラーでグラデーションを描き、雲はスポンジタンポでふんわり描いた。
- ・空の冒険と下界の様子は、パスで自由に表現した。
- ・鑑賞会が終わってからも、青空を見上げ、「くじらぐものともだち」を探し続けるかわいい姿があった。



【事例④】5年表現：デザイン「パラレルワールド」



思春期の入口に立ち、自分を見つめ直す大切な時期である。みんながフレッシュな気持ちで楽しんで表現できるよう、初めてふれる素材「液体粘土」で由良の海を美しく照らす「月」を制作し、同じ時間が流れているけど、「月」が主役の「月の世界」と



「月を眺める別の世界」が存在したら…という「パラレルワールド」をコンテで表現した。初めは戸惑いながらもあらかじめ技法の練習をしたことでモチベーションが高まり、最後の鑑賞会まで活発な活動ができた。

## 2 取組の成果

- ・児童の実態に合った題材や素材との出会いにより、「おもしろい！」と心ときめかせ、描くことが楽しくなり、「もっとやりたい！」と没頭して取り組むことができた。
- ・制作中の鑑賞会を通じて、色の塗り方や、描き方などについて伝え合い、考えを広げたり、深めたりすることができた。
- ・自分の思いを伝えたり（発信）、相手の思いを受け止めたり（受信）することで、相乗効果で、発想の輪がどんどん広がり、一つの活動が深いものとなった。
- ・友だちの工夫を見ることで、自分の作品への見通しを持つことができた。
- ・他学年の児童が見て、「じょうずだね」「どんな作品になるか楽しみだね」と声をかけてくれることで意欲が高まり、根気強く制作し、達成感を得ることができた。
- ・鑑賞会で伝え合う中で、自分の作品と対話し、自分なりの意味を考え描く楽しさを味わうことができた。
- ・スピーチを、図画工作科の鑑賞へつなげたことで、主体的・対話的で深い学びとなった。

## 3 課題及び今後の取組の方向

自由な発想や感性で制作をし、自分の思いや感じたことを伝え合うことは大切である一方、自分の思いを表現することが苦手な児童もいる。

一つひとつの技法や初めての素材、仕掛けとの出会いが子どもに驚きとして迎えられ、苦手意識を持つ子どもも、伝え合い、描く楽しさを味わえる授業づくりに取り組みたい。

そして、子どもたち一人ひとりの人生の素敵な1ページとして「おもしろい！」「もっとしたい！」と夢中になれる時間を過ごせるような研究を進めていきたい。